

鳴門市ふるさと納税 寄附金充当事業報告

このたびは、鳴門市に心のこもったご寄附を賜りまして、誠にありがとうございました。皆様からいただいた寄附金を活用して、実施した事業をご報告いたします。

なお、平成28年度事業として活用させていただいた寄附金の残額につきましては、鳴門市ふるさと活性化基金に積み立て、今後活用させていただく予定です。引き続き鳴門市に、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

鳴門市長 泉 理彦

健康福祉交流センター整備

①子育て支援及び青少年健全育成等の次世代育成支援 ②社会福祉及び高齢者福祉の向上 ③健康増進及びスポーツ振興

多角的、効果的な施設利用に向け、機能の充実や子育て支援機能の集約といった観点から、従前の老人福祉センターとしての機能を残しながらも、幅広い世代を対象とした「健康福祉交流センター」として施設活用を進めるために、施設の整備を行いました。

健康福祉交流センターとしての再オープンに伴い、各種がん検診、乳幼児健診及び健康教室の実施や、関連が深い健康増進課の業務、子育て世代包括支援センター「鳴門市版ネウボラ」及び

「鳴門ファミリー・サポート・センター」を移転するなど、新センターに保健機能と子育て支援機能の一部を集約することで、社会福祉協議会等との連携を深め、施設の利便性の向上につなげました。



水域環境改善・浄化対策

⑤環境の保全及び循環型社会の構築等

ヘドロのたまった川・海・湖・沼などにEM（有用微生物群）を培養したEM活性液等を投入することで、生物や環境にあまり負荷をかけずに、ヘドロを徐々に分解することができます。水質をよりよくするために、地元自治会等にEM活性液培養装置を貸与するなどし、身近な河川や水路でEM活性液を活用した水域環境改善に取り組みました。

応急手当普及啓発事業

④防災・防犯対策及び救急・消防等の充実強化

鳴門市消防本部では年間延べ2,500人の市民の方が心肺蘇生法の講習を受講しています。講習で使用する心肺蘇生人形が劣化し、胸骨圧迫訓練において実際とは力の入れ方も違ってきていたところ、新しい心肺蘇生人形を購入したことで、人体に近い胸骨圧迫が体験できるようになりました。この事業により、救急時に心肺蘇生法を実施している事案も増えてきています。

● コウノトリ見守り事業

⑤環境の保全及び循環型社会の構築等

平成 29 年 3 月、鳴門市大麻町に飛来していた、国の特別天然記念物「コウノトリ」が、昭和46年以降兵庫県以外では全国初となる自然繁殖を行いました。

平成 27 年 5 月頃に大麻町の電柱の上で巣作りをはじめて以降、コウノトリが感電しないように電柱の電気をストップしたり、地元住民や関係者が、エサ場の整備や観察のルール作り、ガードマンを配置したりと、コウノトリを大切に見守った結果、2羽の親鳥と3羽のひな鳥がすくすくと育つ環境が確保できました。



● 文化財保護啓発シンポジウム

⑦文化・芸術活動の推進及び文化財の保護活用

平成 28 年 10 月に国指定史跡に指定された「鳴門板野古墳群」について、史跡の文化的価値を理解し、地域の貴重な文化遺産として活用する方策を考えるため、「鳴門板野古墳群国史跡指定記念シンポジウム」を開催し、約120名にご参加いただきました。

● 鳴門板野古墳群文化財説明板設置

⑦文化・芸術活動の推進及び文化財の保護活用

⑪地域コミュニティ・ボランティア活動の推進

鳴門板野古墳群が、平成 28 年 10 月に国指定史跡の指定を受けたことから、史跡を構成する市内4ヶ所の古墳について、現地説明板の新設と、老朽化した既設説明板の建替を行いました。

● 世界の記憶遺産 PR 展示充実

⑦文化・芸術活動の推進及び文化財の保護活用

板東俘虜収容所に関する資料のユネスコ世界の記憶登録を目指し、鳴門市ドイツ館で情報を随時発信していくため、展示ケースを導入し、周知広報する展示エリアを設置しました。

● 健全育成啓発

①子育て支援及び青少年健全育成等の次世代育成支援

スマートフォンや携帯電話等を使った、インターネット利用時の約束事などを児童生徒に啓発するため、SNS利用が起因する対人関係の悪化、家庭でのルール作成時のポイントなどをまとめたクリアファイルを制作・配布しました。また、インターネットを利用するリスクや危険から子どもを守るために、「家庭におけるルール作り」「フィルタリングの適切な利用」「加害者・被害者にならないための事例と対策」などについてもA4版リーフレットを制作・配布しました。

● 簡易音響設備整備

⑥教育環境の充実及び生涯学習の推進

各幼稚園・小中学校で行われる行事や各種学級、生涯学習まちづくり出前講座、また、市民主催の生涯学習の場で使用される簡易音響設備を整備しました。学校行事だけでなく、市民を対象にした生涯学習の場等で広く活用し、災害時にも移動可能な音響設備は非常に有効的であり、導入した平成28年度では、数多くの学校で運動会、文化祭で活用されました。

● なんとブランドPR事業

⑧地場産業の育成及び企業誘致・就業機会の充実

⑨地域ブランド及び地産地消の推進

なんとブランドPR事業として、3月25日(土)、26日(日)の2日間、まとごとにつぼん(東京都台東区浅草)にて、市の食・観光・文化などのPRを行い、市への誘客を図るため鳴門市フェアを開催しました。

自社商品の魅力を直接消費者に伝えるとともに、消費者の声を聞くことで商品力の向上を目指すべく、6事業者が出店し、観光地である浅草に全国から来られた方に向けて「なんと金時」「鳴門わかめ」などの加工品の試食販売と観光PRを併せて行いました。

